

令和6年度 日向市立財光寺小学校 自己評価及び学校関係者評価書

学校経営ビジョン

【学校の教育目標】たくましく、なかよく生きる、かしこい財っ子の育成

【学校経営ビジョン】「チームで、子ども一人一人を大切に作る学校」

①一人一人に将来必要な力をつける学校 ②職員、保護者、地域みんなで教育に関わる学校 ③笑顔あふれる学校

	評価項目	教師アンケート	評定	保護者アンケート	評定	児童アンケート	評定	総合評定	保護者コメント	結果分析	評価	学校関係者 評価コメント
一人一人を大切に する学校	楽しい学校	① 児童が、楽しく学校で過ごせるよう手立てをとっている。	3.2	① お子さんは、楽しく学校に通っている。	3.5	① 学校は楽しい。	3.7	3.5	・3年生に進級し、学校に毎日通えるようになり、まだまだ幼いですが随分と成長したように思います。先生も親身な対応をしてくださるので、良かったなと思っています。 ・4年生になって難しい授業が増えたため、自主的に勉強をする努力を先生も工夫をされていると感じています。自宅でも早起きして自主的に勉強に取り組む姿勢が見られて、努力は嘘をつかないと実感しているところです。 ・どの先生も子供達にとって何が良いのかを考えて対応して下さっていると感じています。私達、父兄への対応も丁寧で安心してお預け出来ています。働き方改革の面から、先生方もゆっくりできる時間があるのか心配なので、無理なさらずにこれからもお願いしたいです。 ・連絡事項を記入しても担任からの返事がない。改善出来るなら改善して欲しい。	・学校や教師の対応は肯定的な意見が多かった。対応が充実する分、働き方改革の視点で無理をしないよう気遣ってくださる保護者もあり、教師の対応について共感的に受け止められていることが分かる。 ・教師から認められていると感じている児童の割合が高く、教師が児童の自己肯定感を高めようとしていることが児童にも伝わっている。 ・家庭との連絡については、十分配慮しているはずであるが、押印のみや返信遅れなどで「返事がない」と感じさせてしまっていることも事実である。  【改善策または継続策】 ・一人一人の児童のために教師ができることを実直に取り組み続け、信頼を保つことができるようにしていく。 ・「学校が楽しい」と思う児童が増えれば、それに比例して保護者や地域の信頼も増える。児童の意欲を引き出す活動内容を精選していきたい。 ・家庭との連絡は、保護者の声を真摯に受け止め、誠	3.5	○先生方の子どもたちへの対応を見ていると、一人一人の様子をしっかりと見届け、見守っている姿は、寄り添った関わりをされていることが伝わってくる。子どもたちにとって「先生は自分のことを見ている」と感じることで、安心して学校に通えるという信頼感につながっているのではないかと。 ○校長をはじめ全職員が子どものことに全力で取り組んでいることが分かる。休み時間も職員は息つく暇もないようである。 ○1学期は登校するのを嫌がっていた児童が遅れてでも一人で登校するようになってきた。 ○児童アンケートの2項目は、子どもにとってとても重要なことであり、それがどちらも高評価なのは素晴らしい。 ○運動会の団技や表現で練習の成果が出たときの先生や子どもたちの喜び方、涙を見ると、本当に一生懸命頑張ったのだと感動した。先生方がリードし、子どもがついていくといった理想的な結果だと思う。 ○財光寺小学校は子どもたちへの対応が丁寧で親身になって考えてくれるという声を聞いている。
	児童のやる気を引き出す活動と児童の活躍に対する賞賛	② 児童のやる気を引き出す活動を多く取り入れながら、がんばりを認め、賞賛の言葉かけ等を行っている。	3.2	② 学校は、子どもたちのやる気を引き出す活動を多く取り入れながら、がんばりを認め、ほめる取組を行っている。	3.3	② 先生たちは自分のがんばりをほめてくれる。	3.6	3.4	・算数の授業が、難しくなってきた、あまり理解しないまま進んでいるため、今後が心配です。きちんと理解しているか、学校でも確認しながら進めてくださると助かります。 ・担任の先生の発案で字が上手に書けるようになったり、日記の返信コメントで日記を書くことが好きになりました。上の子は担任の先生がほめてくれたと、苦手な体育が好きになってきました。先生方の声掛けのおかげで子どもたちのモチベーションがアップしてとてもありがたいです。 ・今の時代、タブレットやスマホが当たり前になってるし、学校でも、使わなきゃいけない状況になってると思いますが、もう少し、使用時間を減らしても良いような気がします。 ・今年から教科担任制になったので、学年全クラスの先生と接する機会が増えたのはいい。しかし、休んだ時の学習の習得進捗や足りない時の補習などは、結局はクラス担任が担ってくれるので、それはありがたいが、教科担任の先生との連携が取れてないように思う。一人一人の習得具合を把握して対応してもらうには、難しいのかな？と感じる。 ・宿題の答えがないものがあるので全ての宿題プリントには答えをつけてもらいたいです。高学年になるにつれて親も分からない問題があります。 ・宿題が多すぎて子どもも家族も睡眠不足。年々学校で過ごす時間が減り、その分のしわ寄せが家庭にきているのなら少し見直して欲しい。成長期で睡眠も必要なので、適度な量でよいと思	・学習内容の定着に関して不安をもっている保護者もあり、学びの見届け、学びの確認が十分に行き届いていないことがうかがえる。 ・教科指導においては、多くの児童は先生が教えてくれることや授業は分かりやすいと回答しており、日々の教材研究やICTの効果的な活用が、学習の分かりやすさとして効果をあげていると考えられる。 ・「家庭学習」においては、宿題を教えることへの不安がある保護者もあり、安心して宿題に関わることができるようサポートが必要である。 ・教科担任制に関しては、担任以外の先生と接することができるといったメリットを保護者も感じているようである。 ・家読の取組については、全体的に評価が低い。働きかけが不十分である。  【改善策または継続策】 ・デジタル教科書の活用法も含め、ICT（情報機器）を使うだけではなく、どのように効果的に活用できるかを意識して授業づくりに取り組んでいく。 ・宿題への取り組みせ方、解答の配付の仕方について、最初の学級懇談で学年としての方針を明確に示し、その意図を説明する時間を設けることで、保護者の理解と協力を得られるようにする。 ・教科担任制のメリットは生かしつつ、学年の中で、児童の学習状況の共有を充実させていく必要がある。 ・家読の取組については、メディアが読書より優先されてしまう傾向もあるため、読書の楽しさを味わわせるとともに、読書の大切さや取組の工夫を啓発していく必要がある。		○2年生の算数の理解度に差がある。1年生から差があるのではないだろうか。 ○先生方は子どもが理解しやすいように、発言しやすいように仕掛けを作って分かりやすくしていると思う。 ○タブレットは子どもによってうまく活用できていないこともあるようだ。 ○宿題の量については、以前よりかなり減っている気がするが…。家読をする時間は反対に不足しているように思える。 ○教師の自己評価が3点前後なのは、できていないというより、もっと子どもたちのためにできることがあるはずだと考えてくれている気がする。 ○保護者世代がそもそも本を読まない中、家読を進めるのは大変だと思うが、大人になって、読書をしてきた人、ちゃんとできる人は、仕事もできる。そのような将来性やメリットが保護者にも伝わるというい。 ○家読については、時代の背景やタブレットの使用頻度を考えると、今後は逆に読書もタブレットを使う方法を考えてみてはどうか。 ○学習の定着には個人差や家庭環境も大きく影響すると思うので、学校と家庭のコミュニケーションや児童別の対応については、一人の先生で悩まず、複数の先生で対応するとよい。
学力の向上【知】	教師力の向上	③ 児童の学力向上のために「わかる授業」や「学習内容の定着の工夫」を行っている。	3.2	③ 学校は、子どもたちの学力向上のために「わかる授業」や「学習内容の定着の工夫」を行っている。	3.2	③ 先生が教えてくれることや授業は、分かりやすい。	3.7	3.4	・算数の授業が、難しくなってきた、あまり理解しないまま進んでいるため、今後が心配です。きちんと理解しているか、学校でも確認しながら進めてくださると助かります。 ・担任の先生の発案で字が上手に書けるようになったり、日記の返信コメントで日記を書くことが好きになりました。上の子は担任の先生がほめてくれたと、苦手な体育が好きになってきました。先生方の声掛けのおかげで子どもたちのモチベーションがアップしてとてもありがたいです。 ・今の時代、タブレットやスマホが当たり前になってるし、学校でも、使わなきゃいけない状況になってると思いますが、もう少し、使用時間を減らしても良いような気がします。 ・今年から教科担任制になったので、学年全クラスの先生と接する機会が増えたのはいい。しかし、休んだ時の学習の習得進捗や足りない時の補習などは、結局はクラス担任が担ってくれるので、それはありがたいが、教科担任の先生との連携が取れてないように思う。一人一人の習得具合を把握して対応してもらうには、難しいのかな？と感じる。 ・宿題の答えがないものがあるので全ての宿題プリントには答えをつけてもらいたいです。高学年になるにつれて親も分からない問題があります。 ・宿題が多すぎて子どもも家族も睡眠不足。年々学校で過ごす時間が減り、その分のしわ寄せが家庭にきているのなら少し見直して欲しい。成長期で睡眠も必要なので、適度な量でよいと思	・学習内容の定着に関して不安をもっている保護者もあり、学びの見届け、学びの確認が十分に行き届いていないことがうかがえる。 ・教科指導においては、多くの児童は先生が教えてくれることや授業は分かりやすいと回答しており、日々の教材研究やICTの効果的な活用が、学習の分かりやすさとして効果をあげていると考えられる。 ・「家庭学習」においては、宿題を教えることへの不安がある保護者もあり、安心して宿題に関わることができるようサポートが必要である。 ・教科担任制に関しては、担任以外の先生と接することができるといったメリットを保護者も感じているようである。 ・家読の取組については、全体的に評価が低い。働きかけが不十分である。  【改善策または継続策】 ・デジタル教科書の活用法も含め、ICT（情報機器）を使うだけではなく、どのように効果的に活用できるかを意識して授業づくりに取り組んでいく。 ・宿題への取り組みせ方、解答の配付の仕方について、最初の学級懇談で学年としての方針を明確に示し、その意図を説明する時間を設けることで、保護者の理解と協力を得られるようにする。 ・教科担任制のメリットは生かしつつ、学年の中で、児童の学習状況の共有を充実させていく必要がある。 ・家読の取組については、メディアが読書より優先されてしまう傾向もあるため、読書の楽しさを味わわせるとともに、読書の大切さや取組の工夫を啓発していく必要がある。	3.4	○2年生の算数の理解度に差がある。1年生から差があるのではないだろうか。 ○先生方は子どもが理解しやすいように、発言しやすいように仕掛けを作って分かりやすくしていると思う。 ○タブレットは子どもによってうまく活用できていないこともあるようだ。 ○宿題の量については、以前よりかなり減っている気がするが…。家読をする時間は反対に不足しているように思える。 ○教師の自己評価が3点前後なのは、できていないというより、もっと子どもたちのためにできることがあるはずだと考えてくれている気がする。 ○保護者世代がそもそも本を読まない中、家読を進めるのは大変だと思うが、大人になって、読書をしてきた人、ちゃんとできる人は、仕事もできる。そのような将来性やメリットが保護者にも伝わるというい。 ○家読については、時代の背景やタブレットの使用頻度を考えると、今後は逆に読書もタブレットを使う方法を考えてみてはどうか。 ○学習の定着には個人差や家庭環境も大きく影響すると思うので、学校と家庭のコミュニケーションや児童別の対応については、一人の先生で悩まず、複数の先生で対応するとよい。
	教科指導	④ 授業の中で、タブレットパソコンやICT機器等を使いながら一人一人に応じた指導をしている。	3.0	④ 学校は、授業の中で、子どもたちの学力向上のために、タブレットパソコンを使いながら一人一人に応じた指導をしている。	3.1	④ タブレットを使っ ての授業は、楽しくて分かりやすい。	3.7	3.3	・算数の授業が、難しくなってきた、あまり理解しないまま進んでいるため、今後が心配です。きちんと理解しているか、学校でも確認しながら進めてくださると助かります。 ・担任の先生の発案で字が上手に書けるようになったり、日記の返信コメントで日記を書くことが好きになりました。上の子は担任の先生がほめてくれたと、苦手な体育が好きになってきました。先生方の声掛けのおかげで子どもたちのモチベーションがアップしてとてもありがたいです。 ・今の時代、タブレットやスマホが当たり前になってるし、学校でも、使わなきゃいけない状況になってると思いますが、もう少し、使用時間を減らしても良いような気がします。 ・今年から教科担任制になったので、学年全クラスの先生と接する機会が増えたのはいい。しかし、休んだ時の学習の習得進捗や足りない時の補習などは、結局はクラス担任が担ってくれるので、それはありがたいが、教科担任の先生との連携が取れてないように思う。一人一人の習得具合を把握して対応してもらうには、難しいのかな？と感じる。 ・宿題の答えがないものがあるので全ての宿題プリントには答えをつけてもらいたいです。高学年になるにつれて親も分からない問題があります。 ・宿題が多すぎて子どもも家族も睡眠不足。年々学校で過ごす時間が減り、その分のしわ寄せが家庭にきているのなら少し見直して欲しい。成長期で睡眠も必要なので、適度な量でよいと思	・学習内容の定着に関して不安をもっている保護者もあり、学びの見届け、学びの確認が十分に行き届いていないことがうかがえる。 ・教科指導においては、多くの児童は先生が教えてくれることや授業は分かりやすいと回答しており、日々の教材研究やICTの効果的な活用が、学習の分かりやすさとして効果をあげていると考えられる。 ・「家庭学習」においては、宿題を教えることへの不安がある保護者もあり、安心して宿題に関わることができるようサポートが必要である。 ・教科担任制に関しては、担任以外の先生と接することができるといったメリットを保護者も感じているようである。 ・家読の取組については、全体的に評価が低い。働きかけが不十分である。  【改善策または継続策】 ・デジタル教科書の活用法も含め、ICT（情報機器）を使うだけではなく、どのように効果的に活用できるかを意識して授業づくりに取り組んでいく。 ・宿題への取り組みせ方、解答の配付の仕方について、最初の学級懇談で学年としての方針を明確に示し、その意図を説明する時間を設けることで、保護者の理解と協力を得られるようにする。 ・教科担任制のメリットは生かしつつ、学年の中で、児童の学習状況の共有を充実させていく必要がある。 ・家読の取組については、メディアが読書より優先されてしまう傾向もあるため、読書の楽しさを味わわせるとともに、読書の大切さや取組の工夫を啓発していく必要がある。		
	家庭学習の習慣化	⑤ 宿題や読み声などの児童の家庭学習に対して、保護者に丸つけや声かけ、励ましなどをしてもらうよう啓発している。	3.1	⑤ 保護者として、宿題や読み声などのお子さんの家庭学習に対して、丸つけや声かけ、励ましなどで関わっている。	3.3	⑤ 家で宿題や宅習などにきちんと取り組んでいる。	3.5	3.3	・算数の授業が、難しくなってきた、あまり理解しないまま進んでいるため、今後が心配です。きちんと理解しているか、学校でも確認しながら進めてくださると助かります。 ・担任の先生の発案で字が上手に書けるようになったり、日記の返信コメントで日記を書くことが好きになりました。上の子は担任の先生がほめてくれたと、苦手な体育が好きになってきました。先生方の声掛けのおかげで子どもたちのモチベーションがアップしてとてもありがたいです。 ・今の時代、タブレットやスマホが当たり前になってるし、学校でも、使わなきゃいけない状況になってると思いますが、もう少し、使用時間を減らしても良いような気がします。 ・今年から教科担任制になったので、学年全クラスの先生と接する機会が増えたのはいい。しかし、休んだ時の学習の習得進捗や足りない時の補習などは、結局はクラス担任が担ってくれるので、それはありがたいが、教科担任の先生との連携が取れてないように思う。一人一人の習得具合を把握して対応してもらうには、難しいのかな？と感じる。 ・宿題の答えがないものがあるので全ての宿題プリントには答えをつけてもらいたいです。高学年になるにつれて親も分からない問題があります。 ・宿題が多すぎて子どもも家族も睡眠不足。年々学校で過ごす時間が減り、その分のしわ寄せが家庭にきているのなら少し見直して欲しい。成長期で睡眠も必要なので、適度な量でよいと思	・学習内容の定着に関して不安をもっている保護者もあり、学びの見届け、学びの確認が十分に行き届いていないことがうかがえる。 ・教科指導においては、多くの児童は先生が教えてくれることや授業は分かりやすいと回答しており、日々の教材研究やICTの効果的な活用が、学習の分かりやすさとして効果をあげていると考えられる。 ・「家庭学習」においては、宿題を教えることへの不安がある保護者もあり、安心して宿題に関わることができるようサポートが必要である。 ・教科担任制に関しては、担任以外の先生と接することができるといったメリットを保護者も感じているようである。 ・家読の取組については、全体的に評価が低い。働きかけが不十分である。  【改善策または継続策】 ・デジタル教科書の活用法も含め、ICT（情報機器）を使うだけではなく、どのように効果的に活用できるかを意識して授業づくりに取り組んでいく。 ・宿題への取り組みせ方、解答の配付の仕方について、最初の学級懇談で学年としての方針を明確に示し、その意図を説明する時間を設けることで、保護者の理解と協力を得られるようにする。 ・教科担任制のメリットは生かしつつ、学年の中で、児童の学習状況の共有を充実させていく必要がある。 ・家読の取組については、メディアが読書より優先されてしまう傾向もあるため、読書の楽しさを味わわせるとともに、読書の大切さや取組の工夫を啓発していく必要がある。		
	家読の取組	⑥ 「家読（うちどく）」の取組に向けて、児童や保護者に環境づくりや声かけを行っている。	3.0	⑥ ご家庭で、「家読（うちどく）」の取組に向けて、お子さんが家で本を読むための環境づくりや声かけを行っている。	2.9	⑥ 家でもよく本を読んでいる（読書をしている）。	2.7	2.9	・算数の授業が、難しくなってきた、あまり理解しないまま進んでいるため、今後が心配です。きちんと理解しているか、学校でも確認しながら進めてくださると助かります。 ・担任の先生の発案で字が上手に書けるようになったり、日記の返信コメントで日記を書くことが好きになりました。上の子は担任の先生がほめてくれたと、苦手な体育が好きになってきました。先生方の声掛けのおかげで子どもたちのモチベーションがアップしてとてもありがたいです。 ・今の時代、タブレットやスマホが当たり前になってるし、学校でも、使わなきゃいけない状況になってると思いますが、もう少し、使用時間を減らしても良いような気がします。 ・今年から教科担任制になったので、学年全クラスの先生と接する機会が増えたのはいい。しかし、休んだ時の学習の習得進捗や足りない時の補習などは、結局はクラス担任が担ってくれるので、それはありがたいが、教科担任の先生との連携が取れてないように思う。一人一人の習得具合を把握して対応してもらうには、難しいのかな？と感じる。 ・宿題の答えがないものがあるので全ての宿題プリントには答えをつけてもらいたいです。高学年になるにつれて親も分からない問題があります。 ・宿題が多すぎて子どもも家族も睡眠不足。年々学校で過ごす時間が減り、その分のしわ寄せが家庭にきているのなら少し見直して欲しい。成長期で睡眠も必要なので、適度な量でよいと思	・学習内容の定着に関して不安をもっている保護者もあり、学びの見届け、学びの確認が十分に行き届いていないことがうかがえる。 ・教科指導においては、多くの児童は先生が教えてくれることや授業は分かりやすいと回答しており、日々の教材研究やICTの効果的な活用が、学習の分かりやすさとして効果をあげていると考えられる。 ・「家庭学習」においては、宿題を教えることへの不安がある保護者もあり、安心して宿題に関わることができるようサポートが必要である。 ・教科担任制に関しては、担任以外の先生と接することができるといったメリットを保護者も感じているようである。 ・家読の取組については、全体的に評価が低い。働きかけが不十分である。  【改善策または継続策】 ・デジタル教科書の活用法も含め、ICT（情報機器）を使うだけではなく、どのように効果的に活用できるかを意識して授業づくりに取り組んでいく。 ・宿題への取り組みせ方、解答の配付の仕方について、最初の学級懇談で学年としての方針を明確に示し、その意図を説明する時間を設けることで、保護者の理解と協力を得られるようにする。 ・教科担任制のメリットは生かしつつ、学年の中で、児童の学習状況の共有を充実させていく必要がある。 ・家読の取組については、メディアが読書より優先されてしまう傾向もあるため、読書の楽しさを味わわせるとともに、読書の大切さや取組の工夫を啓発していく必要がある。		

豊かな心の育成【徳】	よりよい人間関係の醸成	⑦ 児童のよりよい人間関係づくりやいじめを防止するための取組に努めている。	3.4	⑦ 学校は、子どもたちのよりよい人間関係づくりやいじめを防止するための取組に努めている。	3.2	⑦ クラスやまわりの友だちと仲良くしている。	3.7	3.4	・子どもを迎えに行ったときに高学年ながらも元気に笑顔で挨拶する子どもたちが多く、子どもたちの素直さなど財小の良さを感じます。放課後の過ごし方については学校、家庭で繰り返し指導していく必要があると感じます。 ・給食の残食を減らすのは良いことですが、あまり無理をさせないで欲しい。上の子の時に、毎日おかわりをさせられ生活習慣病の指導を受けた。適切な時間帯に、適切な早さで、適切な量食べる指導を心がけていただきました。 ・下校後に遊ぶ事は問題ないが、自宅周囲や近所周囲で集団で騒がれたりしてややストレスを感じる。遊んでいて他人の家の設備破損や車に何かぶつけられたりした際に注意をして親同士のトラブル（弁償や訴訟など）を起こしたくないので、騒いで遊ぶのであれば（自分の子へも話していますが、仕事で目が届いていない事が現状）公園などで遊んでもらうよう予防的に声かけをして頂ければ助かります。 ・ルールを守れない児童が目につきます。日常的に、人を傷つける発言をする、自己主張ばかりして協調性が無い、放課後の過ごし方（道路に広がって歩いたり、自転車にのる。時間が過ぎても遅くまで遊んでいる）など、家庭の指導も足りないのかもしれませんが、きちんと守れている児童も連帯責任と言われるのはおかしいと思う。	・ほとんどの児童が、周りの友達と仲良くしていると回答しており、大きないじめは起きていない。今後も、アンケートや状況観察で児童の様子を把握するよう努める。 ・校内では積極的にあいさつができる児童も多いが、登下校や地域でのあいさつになると、まだ十分とはいえない。児童の自己評価は高いので、自分ではあいさつしているつもりでも、それが相手に届いていないことも推察される。 ・タブレットの持ち帰りを実施し、家庭での使い方を考えるきっかけづくりにすることができた。しかし、中にはタブレットをうまく活用できない家庭もあり、メディアコントロールの重要性を再認識した。 ・放課後の地域での過ごし方について、地域の方に迷惑をかけるような行動が見られた。その都度、地域に出向いて様子を確認したり、対象児童が分かっている場合は直接指導をしたりして対応してきた。	○あいさつ指導がしっかりと行われており、多くの子どもたちが元気な気持ちのよいあいさつをしているが、中には下を向いたままの子どもがいののが気がり。子どもたちが自信をもち、自然と笑顔であいさつができるような環境づくりに期待する。 ○あいさつする子としない子は7：3ぐらいではないか。 ○あいさつ指導は継続的な指導が必要であり、永遠のテーマ・課題だと思う。 ○登下校時の行動は、基本的には「家庭での教育・しつけ」である。とはいえ、保護者同士ではなかなか注意し合える環境ではないので、運営協議会など地域と連携した子どもへの指導や見守りが必要。 ○登校では、道路横断中にもかかわらずふざけたり横向きに話す児童もいる。 ○メディアコントロールの大切さを保護者、児童、学校、地域とも知るべきだと思う。犯罪に染まってからでは手遅れ。 ○子どもの人間関係はうまくいっているように思える。登校時は一人で登校したり離れて登校したりすることが見られるが、いろいろな友達を楽しく帰っている。 ○放課後の過ごし方は、大人がもう少し広い気持ちで見届けることも必要。そもそも子どもは集まれば騒いだり物を壊すこともある。すぐに怒って子どもたちが何もできなくなるのもどうかと思う。 ○給食は準備、片付けを工夫して、適切な時間確保ができるようにするとい。 ○いじめは絶対に許さないという姿勢で、普段から先生が言葉で発したり、張り紙をしたりしていじめ抑止を図っていただきたい。
	あいさつの励行	⑧ 地域や家でも、児童がしっかりとあいさつができるように指導や声かけを行っている。	3.2	⑧ ご家庭で、地域や家でもお子さんがしっかりとあいさつができるように指導や声かけを行っている。	3.4	⑧ 家や地域でもあいさつや返事をきちんとしている。	3.6	3.4		【改善策または継続策】 ・毎月のいじめアンケートや児童の観察をもとに、いじめを見抜く教師の目、絶対に許さないという学校全体の雰囲気醸成されるような研修、対策会議を継続的に実施していく。 ・人間関係づくりがうまくできない（苦手な）児童も散見される。学級活動や道徳の時間を通して、温かい言葉かけや相手の立場に立った言動等について指導していく。 ・メディアコントロールの取組については、中学校区で手立てを検討し、小中一貫した取組の推進を図りたい。 ・2学期より、定期的に放課後に職員による立番指導を行うようにした。下校時の児童の様子を把握し、指導に生かすことができているので、継続していく。	3.2
	メディアコントロール	⑨ メディア（スマホ・タブレット・ゲーム等）の適切な使い方について、適宜、指導している。	3.1	⑨ メディア（スマホ・タブレット・ゲーム等）の使い方についてお子さんと話し合い、家庭でルールを決め、約束を守らせてい	3.2	⑨ 携帯・スマホ、タブレット、ゲームの使い方のやくそくを守っている。	3.5	3.3			
	きまりを守る	⑩ きまりや社会でのルール・約束を守る大切さについて指導を行っている。	3.5	⑩ 学校は、きまりや社会でのルール・約束を守る大切さについて指導を行っている。	3.4	⑩ 学校のきまりや約束をきちんと守っている。	3.6	3.5			
体力の向上【体】	体力向上	⑪ 体育の授業や外遊びの推進等により、体力づくりに取り組ませている。	2.8	⑪ 学校は、体育の授業や外遊びの推進等により、体力づくりに取り組んでいる。	3.3	⑪ 体育の授業や昼休みの外遊びで体をたくさん動かしている。	3.6	3.2	・感染症等が学年、学級で流行りだした時、連絡事項等で教えていただけると、助かります。病院にかかった際、流行りを伝えることもでき子供への対応もしやすくなるかと思います。	・外遊びについては、職員も可能な限り運動場に出て、児童と一緒に体を動かすようにしている。 ・1月20日現在、むし歯の未治療者は罹患者の約半数となっている。更なる啓発が必要である。 ・インフルエンザ等の感染症に関して、問い合わせがあった場合には状況を伝えていたが、より積極的に情報発信をしていくべきであった。 ・食に関する指導については、栄養教諭と連携を図った食育授業を計画的に各学年で実施することができた。しかし、偏食や少食の児童も一定数おり、食と自分の体の健康とが結びついていないことが考えられる。 ・食物アレルギーの対応については、誤飲誤食等がないように、万全な体制をとりながら対応をしている。	
	望ましい生活習慣と健康管理	⑫ 児童の健康管理や生活リズムの定着に向けての取組や指導の工夫を行っている。	3.0	⑫ 学校は、子どもたちの健康管理や生活リズムの定着に向けての取組や指導の工夫を行っている。	3.3	⑫ 毎日の歯みがきや朝ごはんなど、健康のためにきまりよい生活をしている。	3.7	3.3		【改善策または継続策】 ・スクールスポーツプランをもとに、継続して体力づくりに取り組んでいく。また、体育委員会を中心として、「長なわ大会」などのイベントを仕組むことで、運動する機会も増えてきたので、継続していく。 ・感染症が流行した場合は、安心メールを使ってできるだけ早く保護者に伝達するように努める。 ・むし歯の治療率を高めるため、手紙や担任からの直接的な声かけを通して保護者へ働きかけをしていく。 ・偏食や少食の児童に対しては、食事の意義を理解させ啓発を続けていく。	3.2
	食育指導	⑬ 食育の充実を図るとともに、食物アレルギー等への対応を適切に行っている。	3.5	⑬ 学校は、食育の充実を図るとともに、食物アレルギー等への対応を適切に行っている。	3.6			3.6			

地域とともにある学校	コミュニティースクール	⑭ 体験活動や地域の人材、資源を生かした学習活動を積極的に行っている。	3.2	⑭ 学校は、体験活動や地域の人材、資源を生かした学習活動を積極的に行っている。	3.4	⑬ 校外での学習や地域の人との学習に楽しく取り組んでいる。	3.6	<b>3.4</b>	<p>・財小の先生方は、地域との関わりも深く、熱心に子ども達に指導して下さっていると思う。</p> <p>・PTAは他学校のように時代に合わせ廃止してほしい。</p> <p>・ホームページを活かした発信をもっと行うと良いのではないかと感じます。発信されていたとしても、学校から配布されるプリントで知る機会がほとんどないように感じます。</p> <p>・クラスのことは通信で持って帰ってきますが、学校の取組は、あまり書かれてないので勿体ないと思いました。</p>	<p>・コミュニティスクールの活動として、学校運営協議会委員の仲介で財光寺商店会の協力を得て、「財っ子ギャラリー」の取組を進めることができた。さらに、6年生対象に地域の人材を活用したキャリア教育を実施することができた。</p> <p>・コミュニティスクールだよりを定期的に発行し、学校運営協議会の活動を紹介することができた。</p> <p>・PTAの組織の見直し、活動の在り方について、PTA会長と協議しながら改善を図る必要がある。</p> <p>・五十猛神社例大祭に職員も参加し、地域の方々との交流を図り、学校と地域のつながりを深めることができた。</p> <p>・安心安全メールによる積極的な情報発信、連絡はできたが、保護者が必要としている情報に気付けなかった。また、ホームページ更新の間隔が空いてしまうことが多く、十分な情報発信ができなかった。</p>	<b>3.5</b>	<p>○地域活動への参加は、敬老会やもちつき大会、夏祭りにはたくさん来てくれてにぎやかだが、防災訓練の参加者は保護者共々少ない。参加者ゼロのときもあった。防災の意識を高めるため、地域住民と学校で訓練ができる日を設けてはどうか。</p> <p>○祭りの先生方のパレードはとても良かった。積極的な関わりが、地域とのつながりを深める大きな要因になったと思う。財っ子ギャラリーも回数を増やして定着させていくといい。</p> <p>○秋祭りに職員の参加を続けてほしい。</p> <p>○地域人材が学校で活動するとき、どうしても保護者の姿が見えてこなくて寂しい気がする。5年生がもちつきをしたとき、保護者が多数参加してくださり、地域と一緒に頑張って米づくりの最終章を教えることができた気がする。子どもは親を見て育つと思う。</p> <p>○保護者はPTA廃止と言わずに、働き方改革をふまえて実践してほしい。</p> <p>○学校と地域と家庭が三位一体となって、子どもに真摯に向き合う姿勢を変えないで頑張ってもらいたい。今後、ますます子どもの数が減る方向だが、だからこそ地域全体で子どもたちを育てていく風土を次世代につなげていければと思う。</p> <p>○地域は一生懸命子どもたちの力になろうとしている（しなくてはならない）。学校は積極的に発信してほしい。</p> <p>○ホームページの発信は、どこまでアクセス数や需要があるのか分からないが教育業務の負担にならないような仕組みができるとよい。</p> <p>○中高生や児童会とコミュニティースクールが連携できるといい。</p> <p>○PTAの廃止はあり得ない。育成会においても加入のメリットを問う人がいるが、そもそもPTAや育成会にメリットは少ない。子どものために…それが答えであり、それ以上でもそれ以下でもない。役員をしたくないだけ…。この現状を維持、もしくは下降のスピードを鈍化させるのが精一杯。</p>
	PTA活動の取組			⑮ 保護者として、PTA活動や地域での活動に積極的に参加している。	2.8			<b>2.8</b>				
	地域活動への参加			⑯ 地域で行われるさまざまな行事や活動に、お子さんを積極的に参加させるようにしている。	2.8			<b>2.8</b>				
	情報発信	⑮ 通信や学校HP等を通じて、学校内外の情報を分かりやすく発信している。	3.3	⑰ 学校は、通信や安心安全メール、ホームページなどを通じて、学校内外の情報をわかりやすく発信している。	3.5	⑭ 地域の行事や活動にすすんで参加している。	3.2	<b>3.3</b>				

小中一貫教育に関する自己評価

①	グランドデザインは、職員の共通理解が図られている。	2.9
②	グランドデザインは、家庭や地域の理解が図られている。	2.8
③	めざす児童生徒の姿の実現のために、中学校区内の学校で共通実践が進められている。	3.1